

湘南教組ニュース

2016. 5. 2

No.1226

〈5/6統一職集討議資料〉

湘南教組第61回定期大会を成功させよう！

5月12日(木)・13日(金)

両日／15:30開催

場所／藤沢市民会館大ホール



湘南教組第61回定期大会を成功させ、2016年度運動方針を決定し、力強い前進をめざしましょう。すべての職場・分会の活発な討議を期待します。

〈憲法改悪・国家主義復活反対へのとりくみ〉

2015年9月19日未明、大半の憲法学者が憲法違反の法律であると指摘し、国会周辺を取り巻く多数の人たちが反対するなか、参議院本会議で安全保障関連法案の強行採決が行われました。安倍政権は、2016年7月の参議院選挙において自公合わせて三分の二の議席を獲得し、憲法改悪を行い、安全保障関連法の正当性を位置づけようとしています。

このような、戦後史上最悪とも言える現政権の独裁政治を許すわけにはいきません。湘南教組は日教組や神教組、戦争をさせない1000人委員会等に結集して、4月からの短期集中のとりくみで、「戦争法の廃止を求める統一署名」を指示しました。今後の日本の行く末が左右される、歴史的に大きな分岐点になりかねません。今こそ、戦後70年間、私たち教職員が身をもって掲げた続けたスローガン「教え子をふたたび戦場におくるな！」のもと、とりくむ必要があります。

〈教科書採択問題〉

2015年夏、中学校の教科書採択が行われ、藤沢市では社会科歴史、公民とも再び育鵬社の教科書が採択されました。これまで湘南教組は、教科書採択制度と教科書内容の問題について学習会を開催、オルグ等で情宣も行ってきました。また、広く市民団体とも協力し、署名活動にも参加し、五万四千筆を超える署名が集まりました。この署名は藤沢とりくむ会から藤沢市教育委員会に提出されました。今回の結果を受けて、湘南教組として翌日には、教科書を採択するに当たっての根拠、説明、議論がつくされず、学校現場の意向と大きく異なる教科書を採択したことについて、抗議文を提出しました。また、緊急で分会長会議を開き、今回の採択についての報告集会を行いました。署名の記入者に他市や他地域が多かったことをふまえ、今後は藤沢市在住者に育鵬社の教科書の内容や採択制度の問題点を伝えつつ、引き続き、「藤沢の教科書・採択問題にとりくむ会」「神奈川県教科書・採択問題にとりくむ会」に結集し、とりくみを強化していきます。

<道徳の教科化>

安倍首相の私的諮問機関である教育再生実行会議の提言を受け、小学校では2018年度、中学校では2019年度の完全実施を目指し道徳が教科化される予定です。また、評価については2015年4月より、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議において検討されていますが、一年間かけても答えが見出せない状況です。今後も道徳の教科化については反対していく方針に変わりはありませんが、2017年度に小学校、2018年度に中学校の教科書採択が行われるにあたり、憲法・子どもの権利条約に則し、平和や人権の観点からの授業実践を行っていく必要があります。

湘南教組は引き続き、日教組・神教組に結集し、検定教科書の使用や評価を伴う道徳の教科化について、問題点・課題の共有や実践提起のための学習会等を行い、市町教委との協議・申し入れや組織出身議員と連携した議会対策など、とりくみを強化していきます。

<子どもの貧困、若年層の貧困問題へのとりくみ>

現在日本では、18歳未満の子どもがいる世帯の相対的貧困率が16.3%と悪化し、子どもの6人に1人が貧困状態におかれており、家計の格差が教育格差につながってきています。この湘南地区においても、学校間の差はあるものの、25%近くが就学支援を受けている学校状況も見られ、連合や推薦議員と連携し、その改善に向けてとりくんでいます。

また、現在の若者たちの奨学金の返済による問題もとりだたされており、給付型の奨学金の制度構築も含めて、国や地方自治体に改善の要求をしていく必要があります。

湘南教組は今後も、自治体の財政力や保護者の所得の違いによって、子どもたちが受ける「教育水準」に違いが生まれないように、格差と貧困のない社会をつくるためのとりくみをすすめていきます。

<政治運動と組織拡大強化>

現安倍政権発足から4年、教育課題や労働条件等は改善されず、その反面、新教育委員会制度によって、首長主宰による総合教育会議が設置され、教育の政治的中立が脅かされるとともに、個人よりも集団・公の秩序が重視される国家主義化が進み、自由な教育を許さない環境が強化されています。こうした状況を打開するために、また私たちの声を国に届けるために、そして日本国憲法による平和主義を貫くためにも、2016年7月執行予定の参議院選挙に組織の総力を挙げてとりくむことが重要です。

湘南教組は、神奈川県で教員出身の組織内議員、「なたにや正義」と連合神奈川も推薦する、「かねこ洋一」の再選に向けて、組織の総力を持ってとりくんでいかなければなりません。そして、子どもたちに主権者とはどういうことか示すためにも、自分たちの声をしっかりと投票行動に結びつける必要があります。

教職員の世代交代が進む中、2016年度も200人近い新採用、転任採用者を迎えます。組合運動の継承と働きやすい職場づくりを進めていくためにも組織の強化拡大は欠かせません。また学校現場の課題や組合員の困難な状況の改善のためには、組織の人数や結集力が問われます。湘南教組は今後も、各分会と連携することはもとより、組合員ひとり一人の立場にたって考え、とりくみをすすめていきますので、各分会での新採用、転任採用、未組合員の組織化をお願いします。

執行部のつばやき④

『優しく声をかけて下さい。』

今この記事を読んで下さっている方、ありがとうございます。執行部って異世界だと思っていませんか？僕は、異世界だと思っていましたよ。でも僕もみなさんと同じ普通の教職員です。まさか自分が執行部にいるなんて、想像できませんでした。みなさんも同じですよ。そんな自分がなぜ執行部に居るのか、少しお話しします。

私は、組合活動にはあまり熱心ではありませんでしたし、必要性もよくわかりませんでした。それでも、なんとなく組合を続けていました。ある時、学校で大きな事件があり（詳しくは書けませんが・・・）、とても困ったことになりました。本当に困り果てた時、大先輩の2人が、自分の事でもないのに、夜遅くまで、何日にもわたり私を助けてくれました。そのせいで、その二人にも不利益が発生し、辛い思いをしているときでも「大丈夫？」と声をかけてくれる素敵な先輩でした。先輩は、「組合員はみんな仲間、誰かを守るために組合があるんだから」と言っていました。そうか、組合ってそんなものなんだ。そう思った自分がいました。

その2年後に私の学校から執行部を出すことになりました。その時、先輩の一人は管理職になり、一人は退職を控えていました。ですから、私は執行部を受けようと決めました。そして先輩がやっていたように後輩を守りたいと思ったのです。だからといって大したことはできていません。でも、少しでも誰かを守れるっていいなと思っています。

毎日大変ですが、良い経験をさせてもらっています。そして、一緒に働く地域を越えた友達も出来ました。今の私を見たら、先輩はほめてくれるかな？それでもやっぱり辛いこともあります。もし、執行部の人を見かけたら明るく声をかけて下さい。その声が力になるのです。ちょっと堅くなってしまいましたが最後まで読んでいただきありがとうございました。



日時 2016年 6月23日(木) 開場 17:00 開演 18:00
場所 藤沢市民会館 小ホール 主催 湘南教育文化研究所